

令和3年度 新潟市花育推進委員会（第1回）

日 時：令和3年8月20日（金）午後2時00分～

会 場：新潟市役所ふるまち庁舎 401 会議室

食と花の推進課長	<p>皆様、本日、本当にご多忙な中、コロナで大変な状況の中、ご参集いただきまして、本当にありがとうございます。</p> <p>今回、委員の改選となりまして、新たに9名の方から委員になっていただいたのですが、そのうち5名の方が本当に新規で委員にご就任いただいております。本当にありがとうございます。本当は初顔合わせなので、皆さんにお集まりいただきたかったのですが、コロナの状況を鑑みまして、急遽このようなハイブリッドな形での開催とさせていただきました。急な変更にご対応いただきまして、本当にありがとうございます。</p> <p>新潟市の花育推進計画なのですが、こちらは、新潟市の豊かな自然と田園ですとか、花の産地が都市と隣接しているというところを本市の特徴として捉えまして、「食と花の政令市にいがた」ということで、平成19年に政令市になったのですが、そのタイミングに合わせて平成20年に策定された計画でございます。現在は、その第2次ということで、平成29年から令和4年度までを計画期間としまして、さまざまな取組を進めているところでございます。次期計画なのですが、令和5年度から8年間という期間になりまして、今年度と来年度の2か年をかけまして「第3次花育推進計画」というものを策定するという重要な局面となっておりますので、今回、花や花育にかかわる幅広い分野の皆様から花育推進委員会の委員にご就任いただいております。本当にありがとうございます。</p> <p>新型コロナウイルス禍ということで、皆様も生活様式ですとか意識がいろいろと変化していく大変な状況なのですが、花のもつ心を癒す効果ですとか、場を華やかにしたり季節を感じたりというような魅力が再認識されているのではないかと考えております。新潟市の市民アンケートによりますと、57パーセントの市民の皆様が新潟市の花や花木に誇りをもっているという回答があるのですが、30歳代以下になりますと45パーセントを切っている状況でございます。これからも市民の皆様に、新潟市は花の一大産地であるというその意味をより知っていただいて、郷土を誇りに思えるような新潟らしい花育計画の策定を考えておりますので、ぜひ皆様から幅広い知見でご意見をいただければと思っております。本日はよろしく願いいたします。</p>
司 会	<p>ありがとうございました。今ほど話がありましたように、本日の委員会は、オンラインの方と会場の方と両方いらっしゃいます。オンラインでご出席の委</p>

員は、青山委員、阿部委員、片岡委員、北澤委員、玉木委員、中野優委員の6名になります。会場のご出席は、坂井委員、中野節子委員、村井委員の3名になります。通常、市側の関係課も出席している会議なのですが、新型コロナウイルス感染対策のため出席を控えさせていただきますことをご了承ください。

2点、ご確認をお願いいたします。まず1点目は、配布資料の確認になります。事前に資料をお送りさせていただきました。一つ目が次第です。二つ目が令和3年度新潟市花育推進委員会委員名簿、そして新潟市花育推進委員会設置要綱、続いて新潟市花育推進委員会の概要。続いて資料1-1「令和2年度花育推進事業の取り組みについて」、資料1-2「令和2年度新潟市花育マスター活動状況まとめ」、資料1-3「令和2年度花育活動アンケート結果」。続いて花育事業体験報告レジュメほか、中野節子委員からお聞きする資料を2種類。続いて「にいがた花育通信」、「花育俳句」募集チラシ、「令和2年度多面的機能支払交付金活動事例集」。続きまして、玉木委員からご提供いただきました「花育出前授業」の資料。これが事前にお送りした資料となります。本日の追加資料としまして、資料2「令和3年度花育推進事業の取り組みについて」、資料3「新潟市花育推進計画の策定に向けて」、最後に北澤委員からご提供いただきました「新潟農業・バイオ専門学校これまでの花育活動」、以上の3点になります。不足の資料はございませんでしょうか。適宜、画面共有しながら進めていきたいと思っておりますので、よろしくをお願いいたします。

2点目は、会議の録音についてです。当会議は公開となっております。後日、ホームページなどで議事録を公開するため、会議を録音させていただきますので、ご承知おきください。また、記録、広報用に写真撮影をさせていただきますので、ご了承ください。

本日、取材の申込み、一般傍聴はございません。

今年度は、先ほど課長からの話にもありましたが、花育推進委員の改選の時期ということになりまして、5名の方から新たに委員に就任いただきました。

先ほど少し説明もあったのですが、改めて当委員会の概要について説明させていただきたいと思っております。皆様、お手元の資料に「新潟市花育推進委員会の概要」という資料をお配りしましたので、それをご覧いただきながら説明させていただきます。この新潟市花育推進委員会なのですが、先ほども話がありましたように、「食と花の政令市にいがた」を標榜する本市では、花や緑と親しむことで豊かな心を育む花育の活動を推進するために、「新潟市花育推進計画」を策定しているということになります。通常、こういう計画だと、国や県に上位計画があることが多いのですが、この計画は新潟市独自の計画になります。計画を進めるためには、皆さん、いろいろな方が一体と

	<p>なって取り組むことが望まれ、その中心的役割を担うのが新潟市花育推進委員会という役割になります。皆さん方の役割になります。</p> <p>2番目に事務ということで三つ書いてあります。計画の進捗状況の評価に関すること。計画の見直しに関すること。その他、花育の推進に係る事項に関することを検討して、市長に提言をしてもらうという役割を担っております。</p> <p>委員の構成については、こちらの設置要綱がございまして、10名で構成する内容になっております。本来であれば、市民の方から公募委員ということで就任いただくのですが、募集したところ今回応募がありませんでしたので、公募委員はなしで9名の構成となっております。委員の任期は、先ほどもありましたように、令和5年3月31日までの2年間ということになります。</p> <p>会議ですが、例年は年1回の会議になります。先ほども話がありましたように、花育計画の概要が下に書いてありますけれども、今回、令和5年度の第3次花育推進計画に向けて皆様方から議論していただくということになりますので、今年度は2回の会議、来年度は3回の会議ということで、皆さんに集まっていただいて議論していただくということになりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、継続委員の方もいらっしゃいますけれども、改選後初めての会議になりますので、お一人ずつ簡単に自己紹介をお願いしたいと考えております。そのときに、ご自身で取り組まれている花育活動につきましてもご紹介いただければと思います。お配りした名簿順をお願いしたいと思ひまして、まず青山委員よりお願いしたいと思ひますので、青山委員、よろしくお願いいたします。</p>
青山委員	東区にあります、認定こども園松崎保育園の園長をしております、青山ゆかりと申します。よろしくお願いいたします。よろしいですか。
司 会	もし、取り組まれている活動などがありましたら、ご発言いただければと思います。
青山委員	そうですね。なかなか「花育」という言葉が難しいところもありまして、園としてよく朝顔を育てて、それがグリーンカーテンになるということはしていますけれども、それが花育だというところがなかなか難しい、花育を進めるのも難しいところだなと思っております。
司 会	ありがとうございます。続いて阿部委員、よろしくお願いいたします。
阿部委員	今年度委員になりました、根岸小学校校長の阿部祐子と申します。よろしくお願いいたします。根岸小学校は南区にあるのですが、南区は農産物や花の栽培でも盛んなところでもあります。学校現場は、議会が計画される花を、朝顔とかひまわりなどを育てるという学習がたくさんあるのですが、新潟市の花をという、花育ということに関しては、万代橋のチューリップを毎年

	出しているとか、そういったことに参加するということは何の学校もやっていると 思います。また、新潟市というところにポイントを当てての花育となると、 これからもいろいろと考えていかなければいけないと考えています。どうぞよ ろしくお願いいたします。
司 会	ありがとうございます。続いて片岡委員、お願いいたします。
片岡委員	片岡です。私は、新潟県花木振興協議会の会長ということで今は座っており まして、こちらの会の活動と申しますと、何よりも花木の花の作地ということ ですが、最近、新潟発の花を新しく、あるいはもう一回うまく装いに合わせ て消費者、あるいは流通、市場にアピールしていくということが大目的であり まして、3年前でしょうか、今、生産にのっている、流通に発信されておしま すが、アザレアの「ひろか」と「スノーシャイン」という新しい品種は、私ど もと産地と新潟県の園芸研究センターが一緒になって作り出した新しい品種 で、試験段階を踏んで、そして事実上、去年から京阪神あるいは北海道向けに そのアザレアを出しております。幸い評判はいいところなのですが、それ以外 にも私どもの団体としていくつかかかわってしまして、会員は秋葉区だけで はなく南区も入っておりますので、100名以上の方がかかわっています。そこ で、やはりいろいろな関連団体、あるいは連携すべき団体と一緒に事業を時々 はやっておりまして、「花いっぱいプロジェクト」は最初の頃からお付き合い、 支援をさせていただいております。また、近い足元のところでは、私どもの 協会のメンバーの周辺を含めて、新潟駅の駅南のフラワーボックス、30くら いでしょうか、30くらいの、景観ではあるので、そのアザレアの耐寒性を見て みるということ、そこにほかでは見られないものを植えてみよう。今期はサツ マイモを植えてみたのですが、そういう実験も市の公園水辺課と一緒にやっ ているという、そういう側面もあります。とりあえずそのようなところで、あ りがございました。
司 会	ありがとうございました。続きまして、北澤委員、お願いいたします。
北澤委員	新潟農業・バイオ専門学校の北澤と申します。私が担当している学科は、フ ラワーデザイン科と大学併修自然環境総合科という学科です。フラワーデザ イン科は将来の生花店の店員、それから造園業、園芸店などに勤めることを目 指している学生のための授業を行っている科として、大学併修自然環境総合科 というのは、大きく括って自然環境の環境保全にかかわるお仕事を目指して いる学生を育てる学科です。  お手元に資料を配っていただいた、今までの新潟農業・バイオ専門学校の花 育活動を見ていただければと思いますが、近くに山潟小学校がありますので、 山潟小学校からお話を伺って、フラワーアレンジメントクラブの先生を学生が しています。その学生がどのように児童の皆さんがお花を楽しめるかというこ

	<p>とを考えるとということも授業になっておりまして、自分たちも楽しみながらお花を楽しむということを教えて、これを実践してもらっています。山潟小学校は、毎年同じように小学校の1年生の方が朝顔を育てる授業があるようで、その授業でできた朝顔の弦でリースを作るということを毎年やっていらっしゃるのですが、その弦の作り方ですとか飾り方、そういうところも授業でやって、やはり今までの経験で、小学校、幼稚園、保育園、そのくらいの年齢から花好きになっていくと、将来のお仕事もお花という、花関連の仕事を考える方がいらっしゃるの、私たちも花好きの仲間を増やすという、ブレーンをありがたく思って、一生懸命花好きの仲間を増やそうという活動をしています。</p> <p>また、そのほか造園の授業がありますので、いろいろなところに庭を造らせてもらえませんかというお話を持ち掛けて、島見緑地さん、それから南魚沼の方なのですけれども、八色の森公園で庭を造らせていただいて、その庭をただ造るだけではなくて、必ず造ったものを使って遊ぶということ、それを収穫して楽しむという提案をするということができるようという、その後のプログラムも考えて活動しています。</p> <p>今回、私たちの活動で何かお手伝いできることがあればと思いますし、いろいろなアドバイスをいただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
司 会	<p>続きまして、坂井委員、お願いいたします。お手元のマイクを使ってご発言ください。</p>
坂井委員	<p>はじめまして。新潟駅前で花屋をしております、坂井八恵子と申します。どうぞよろしくお願いいたします。私は、花育活動としまして、親子レッスンのような親子で楽しんでもらうお花の活動ということで、少したまにやっております。あとは、今コロナでできないのですけれども、一昨年になりますか、コロナの前に小学校でクラブ活動をさせていただきまして、お花のアレンジメント、子どもたちにお花に触れてもらおうということで教えて、そのまま飾っていただいて親子で楽しんでもらおうということで、活動をしておりました。また、資料にもありましたけれども、次の玉木社長と一緒に専門学校にお花を教えに行くということで、アレンジメントと一緒に参加させていただきました。このように、皆さんに体験をしていただくということをもっと広めていければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
司 会	<p>続きまして、玉木委員、お願いいたします。</p>
玉木委員	<p>新潟市中央卸売市場の花き部で花の卸売市場をさせていただいています玉木と申します。よろしく申し上げます。花育に関してですけれども、資料に添付したとおり、花育の出前授業をしております。きっかけは魚の部門の会社が魚の出前授業をしていたので、私どももこれを実践したいということで、いろ</p>

	<p>いろな小学校に出向いて行って花育の出前授業をしておりました。昨年は、やはりコロナの影響で応募がなくて、ひまわりクラブやまちづくりセンターでさせていただいただけでしたけれども、国の予算等が下りてきましたので、坂井さんと一緒に、新潟は食と花で盛り上げないといけないのではないかとということで、調理師専門学校等2校に行っ、昨年は1校でしたけれども、花屋さんのご協力を得て、昨年度は花を食卓に飾るとか、また料理屋に飾ってもらえるように、何とか今の生徒に花を使っていたきたいということで出前授業をしてきました。</p>
司 会	<p>では、続きまして、中野節子委員、お願いいたします。</p>
中野（節） 委員	<p>皆さん、こんにちは。中野です。よろしくお願いたします。今日、花育マスターの体験報告もさせていただくのですけれども、職業は秋葉区で花の卸業をやっておまして、その傍らと申しますか、どちらが本業か分からないのですけれども、NPO法人を運営しておまして、そちらで障がい者の就労事業をやっております。最近、障がい者にいかに花に携わっていただくか、彼等が作る花で付加価値をつかって、全国に発信していきたいというような活動もしております。10年前からいろいろな花育活動を、高齢者を支援するところから始まったのですけれども、高齢者を支援していく中で世代交流が一番必要だと考えました。世代交流にはキーワードがないと交流ができないということも分かりまして、なぜかと言うと、高齢者と若い人は言語が通じないのです。英語と日本語くらいに言葉が通じないので、共通言語のものとして花を使うというような活動を10年前からやり始めまして、そのうち高齢者がどんどん元気になってきましたので、これは子どもたちを育てなければいけないと思ひまして、子どもたちに花に携わってもらおう、それが花育ということになるのか私は分からないのですけれども、子どもたちははっきり言ってまったく花に興味がありませんでした。それがすごくショックで、新潟の子どもたちでありながら、新潟の花は何みたいな形で言われて、それでも負けずに10年間ひたすら子どもたちに花、花、花と言いつけた結果、講座の最後で花が大好きになったというような子が増えていったという、それは私の話術がうまくなったのかもしれないのですけれども、一人でも多くの若い子たち、子どもたちに新潟はすごいねと、新潟は花の名産地なのだねということが分かるような活動を続けていった結果、今、障がい者支援もありまして、どんどんいろいろなものが花育、花にかかわることによって社会の問題点が見えてきたような気がします。</p> <p>後半、私の体験報告もさせていただきますので、すみませんけれどもお付き合いいただければと思います。中野でございます。よろしくお願いたします。</p>
司 会	<p>続きまして、中野優委員、お願いいたします。</p>
中野（優）	<p>私、新潟大学農学部の中野と申します。ここ数年間この委員を務めさせてい</p>

委員	<p>ただいております。私、大学では、花卉園芸学、花ですね、それから植物育種学、品種改良ですけれども、それから植物細胞工学というバイオテクノロジーに関する講義を担当しております。取り立てて花育というようなことはなかなか難しいのですけれども、やはり学生に実際の花をいろいろ見せないといけません。と思っておりますので、大体週替わりで農学部の玄関のところに簡単な解説つきで花を飾って、そしていろいろな学生に見てもらいたい、今はこういった花の季節ですよということを、あとは触ってもらってどのくらいの大きさか、やはり写真だけではなかなか分からないところがありますので、そういったことをしております。よろしく願いいたします。</p>
司 会	<p>では、最後に村井委員、お願いいたします。</p>
村井委員	<p>こんにちは。小須戸小学校、小須戸中学校の地域教育コーディネーターをしております村井といいます。私は、学校の先生とよく連絡を取り合って、地域と連絡を取り合って、中学校は今回のパンフレットの花育通信に記載されているのですけれども、毎年中学校1年生の生徒と矢代田小学校の生徒、山の手コミュニティ協議会、矢代田保育園の生徒で、矢代田駅前にプランターの花を植えようという活動を10年来させていただいております。なお小学校では、地元の小須戸はボケの花が有名なものですから、毎年4年生の総合授業で、ボケの花を植えて3月にボケの花を咲かせるという形で、今も活動を継続させていただいております。それから、花と言うと皆きれいな花ばかりを考えているのですけれども、雑草も入るものですから、今日も小須戸小学校に地域の緑化ボランティアという方がいらっしゃって、朝6時から1時間半、校地内の雑草取りもしてきました。ですので、花を育てると雑草を取るという、そのようなところも協力させていただいて、地域の方とやらせてもらっています。それから、小須戸小学校は、野菜作りも一生懸命やっているものですから、地場産の市場で苗を買ってきて、食育ではないのだけれども、野菜、トマト、ししとうとかなすを育てて、子どもたちにそういう教育をするお手伝いをさせていただいています。</p> <p>今年、初めての役員になりましたので、よろしく願いいたします。</p>
司 会	<p>皆様、どうもありがとうございました。</p> <p>続きまして、事務局の紹介をさせていただきたいと思います。</p>
食と花の推進課長	<p>食と推進課の坂井と申します。どうぞよろしく願いいたします。</p>
事務局	<p>同じく食と花の推進課、課長補佐の岸本です。花育としまして、この前の台風で家の庭のユーカリが根こそぎ倒れたので、週末に一生懸命、添え木をして復活させるのに手いっぱいでした。花を愛しております。</p>
事務局	<p>担当係長をしております、佐藤と申します。よろしく願いいたします。</p>

事務局	食と花の推進課の加藤です。よろしくお願いいたします。
事務局	同じく花育担当をしております、渡邊です。よろしくお願いいたします。
司 会	<p>以上、事務局5名になります。よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、議事に入る前に、改選になりましたので、会長、副会長を選出させていただきたいと思います。新潟市花育推進委員会設置要綱の第6条第1項に基づきまして会長を、第3項に基づいて副会長を、それぞれ委員の互選により決めていただきたいと思います。立候補や推薦等はございますでしょうか。</p> <p>もしないようでしたら、事務局案としまして、前回から引き続き会長に中野優委員、副会長には玉木委員を推薦させていただければと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>ありがとうございます。それでは、会長に中野優委員、副会長に玉木委員でご異議ないということでよろしいでしょうか。</p> <p>(「異議なし」の声)</p> <p>では、皆さんの互選により、中野優会長、玉木副会長に決定いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。先ほどごあいさついただいたのですけれども、会長、副会長より一言ずつ就任のごあいさつをお願いしたいと思いますので、中野優会長、よろしくお願いいたします。</p>
中野会長	また2年間よろしくお願いいたします。本日は、こういったリモート、多少の不手際の可能性があるかと思いますが、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。
司 会	では、続きまして、玉木副会長、よろしくお願いいたします。
玉木副会長	急に副会長に、デッドボールみたいな気がするのですがけれども、頑張っていきますので、よろしくお願いいたします。
司 会	ありがとうございました。それでは、ここからは中野会長より議事を進行していただきます。中野会長、どうぞよろしくお願いいたします。
中野会長	<p>それでは、議事を進行させていただきたいと思います。まずは進行の方法としてなのですが、1番と2番、二つの議題の説明が終わった時点で、一旦、委員の皆様からの質疑や意見についてお受けしたいと思います。</p> <p>それでは、(1)「令和2年度花育推進事業の取り組みについて」、続きまして(2)「令和3年度花育推進事業の取り組みについて」、事務局よりご説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>それでは、説明させていただきます。まず、令和2年度の花育推進事業の実績について報告いたします。資料1-1をご覧ください。1ページは、数値指標の取組一覧です。それぞれの指標に関する取組内容については2ページ以降に記載しておりますので、合わせてご覧ください。</p> <p>(1) 情報誌の発行部数については、平成30年度から予算の関係で部数、</p>



発行回数ともに減少しておりますが、令和2年度も年3回6,000部発行しております。

(2) 花育関連講座の受講者数については、食育・花育センターにおいて各種園芸講座、寄せ植え講座、苔やアロマ等の講座を開催し、受講者は計1,698人で、回数は71回でした。緊急事態宣言の発令により、4月、5月は園芸講座や花育市民体験の実施を中止しまして、6月に再開後も密を防ぐなどの感染症対策をしながら実施したため、例年に比べて受講者数は減少しております。

(3) 花育の日・花育月間の推進については、4月は花の小売店に協力いただきまして、花育の日のPRののぼり旗の掲揚と、協力店独自の特典と併せた花の種の配布を行いました。25社38店舗から参加いただき、アンケートでは次回も参加したいとの肯定的な回答を多くいただいております。10月は、食育・花育センターで感染症対策を行いチューリップクイズとチューリップ球根植えの体験を実施しまして、11組115人から参加いただきました。講師の花育マスターによるチューリップクイズでチューリップへの関心がより高まった様子でした。

(4) 花育マスターの派遣件数については、令和元年度より市からの報償費の支払いがなくなり、派遣から紹介に制度変更しました。以降は、花育マスターの活動把握のためにアンケート調査を実施しております。資料1-2に「令和2年度花育マスター活動状況のまとめ」をつけております。こちらをご覧ください。資料1-2の2、活動場所について、円グラフの上が令和2年度、下のグラフが令和元年度です。コロナ禍で福祉施設、保育園、幼稚園、自治会などの活動が減少し、少人数での自主開催が増えています。このため1の活動状況では、令和元年度と比較して活動回数は増加し参加者数は減少しました。資料の裏面は、感想になっております。コロナ禍で感染対策をしながら実施し、お花で癒される時間の大切さ、花育活動の意義や必要性を改めて感じたなどの感想が寄せられています。

続いて(5) 花育団体体験プログラム等の実施については、食育・花育センターで、小学校、保育園、幼稚園等の希望に応じた花育に関する体験プログラムを提供しています。緊急事態宣言を受けて4月、5月は中止し、6月以降に再開したものの、移動のバスが密になるなどでキャンセルが相次ぎ、実施校数、園数は51件1,530人と、例年に比べて減少しております。

(6) の保育所、幼稚園、小学校の地域との連携による花育活動実施率については、毎年市内の公立校等にアンケート調査を実施しております。地域との連携率については、全体で47パーセントと、昨年度の54パーセントから減少しました。特に幼稚園、保育園において減少し、コロナ禍のため地域との連携は実施しなかったというコメントが多くみられました。資料1-3は、そちら

のアンケート結果となっております。資料1-3をご覧ください。

資料1-3の問3ですが、花育活動に係る課題です。課題のその他に回答いただいた主な内容を右に記載しております。コロナ禍で地域の人と活動できない。野菜の栽培を行っているが、その他の花や緑等までは難しい。水やりが困難。教育課程に位置づけることが難しいなどの課題が挙げられています。野菜の栽培につきましては、花育として捉えている場合とそうでない場合があるようであり、今後は皆さまとともに、新潟市の花育の定義についても考えていければと思っております。資料1-3の裏面は、平成27年度から令和2年度までの花育活動の経年変化をグラフにしたものです。上のグラフは、花育活動実施率で、いずれも高めに推移していますが、下のグラフの地域と連携した花育活動実施率では、小学校や幼稚園と比べて保育園の地域連携割合が低く推移しています。保育園は、「花育活動に係る課題」として「ノウハウがない」を挙げた園がもっとも多く、花育活動に関するノウハウの提供などの働きかけが重要となっております。

続きまして(7)生産現場の花育活動登録数です。花育マスターの制度変更に伴いまして、団体としての登録数は0となっておりますが、実態としては生産農家と学校等が連携している取り組み自体は多いため、花育マスターの登録によらず連携している活動にスポットをあてて継続的に取り組んでいく体制づくりが重要であると考えております。

(8)緑化活動推進事業に実施団体数につきましては、公園をはじめとした公共施設などで緑化活動を行う地域団体等への支援として、花の苗などの購入費を補助し、緑豊かで潤いのあるまちづくりを推進する事業となっております。令和2年度は318団体が実施しています。

(9)新潟の花や緑について生産者や流通の現場で学ぶ講座等の受講者数については、例年花の産地である秋葉区において、生産現場を巡るバスツアーや栽培講習会を実施し好評でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度は中止となりました。秋葉区や地元園芸業者などによるチューリップ球根商業生産100周年記念事業実行委員会がボランティアなどと植え付けたチューリップを楽しめるように、自由に散策できる対応としました。ほかに公共施設において鉢花の寄せ植えを展示し、来庁者、来場者へPRを行っております。

(10)多面的機能支払交付金事業を活用した植栽による景観形成等への取り組みについては、取組率85.3パーセントでした。こちらについては、事例集をお配りしておりますので、後ほど具体的な取組についてご確認いただければと思います。

ここまでの通常事業の取り組みにつきましては、令和3年度も令和2年度と

同様に継続して取り組んでおります。

次に、5ページの2、その他の取り組みについてです。(1) 花育俳句については、前年度に引き続き募集しまして、全国から778人1,130句の応募がありました。俳句をとおして花に関心をもつていただくとともに、新潟市が花の大産地であり花育に取り組んでいることを全国にPRする機会になっていると感じています。

次に(2) フル・フル・フラワーキャンペーンです。こちらは、令和2年度のみ取り組みとなります。新型コロナウイルス禍で式典や祝宴、イベント等の開催自粛や中止を受けまして、彩となる花の需要が著しく低下しました。そのため、緊急対策として市と関係機関が連携し、市内産花きの消費を喚起する取り組みを行っております。

一つ目は、①の割引券を活用した市内産花きの需要・消費拡大の支援です。本事業に参加した市内の生花店等の71店舗において1,000円以上の市内産花きを購入した市民に、500円の割引を実施しました。利用者には割引券に氏名、居住区、性別、年齢を記入してもらい、購買層などについても集計を行っております。また、花の小売店と市とのつながりもできましたので、今後も連携していきたいと考えております。

②市内公共施設等での花展示は、花きに対する消費マインドを喚起するため、公共施設や新潟駅などで市内産花きの展示、装飾を行いました。展示には、市内の小売店などから携わっていただきまして、花でまちを彩りPRを行っております。

6ページの③広告宣伝です。若い世代に向けた発信ということで、テレビ局等とのタイアップによるチューリップを中心としたプロモーションを実施しました。地元民放4局と連携し、各局のパーソナリティ、アナウンサーを宣伝キャラクターに起用したポスター、ビジュアルの掲出、各局番組内での宣伝紹介、動画制作などを行いました。

次に(3) 園芸相談の実施は、食育・花育センターで実施している専門の相談員による無料相談となっております。5,423件と多くの市民から利用いただきました。

(4) 萬代橋チューリップフェスティバルです。市の花チューリップを育て、市のシンボルである萬代橋と周辺を彩るという取り組みで、多くの園・学校等で取り組まれています。令和2年度は、426の団体及び個人が参加しました。

7ページの3、関係団体と連携した取り組みの(1)にいがた花推進委員会と連携した「新潟の花を贈ろう」キャンペーンです。毎年実施している取り組みですが、令和2年度の母の日については、新型コロナウイルス感染症の影響

で中止しました。また、その他の取り組みは、例年食育・花育センターで実施していましたが、令和2年度はNEXT21、郵便局、銀行、新潟駅など、より多くの人の目に触れる形で実施しました。

7ページの(2)にいがた花絵プロジェクト実行委員会と連携した花絵制作です。令和2年4月は、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となりました。にいがた花絵プロジェクト実行委員会では、花絵制作のほかに、チューリップを楽しんでもらい生産者にエールを送るという目的で、冬のチューリップを販売する「Sundayだけのチューリップ花屋さん」という取り組みを実施しています。例年は事務所がある本町で開催していますが、令和2年度は万代シティで開催し、大変売れ行きがよく、35種類1,700本が早めに完売したということです。人が集まる場所で開催することで、無関心層や少しだけ花に興味がある層に響く好事例となりました。

以上で、令和2年度の花育推進事業の説明を終わります。

続きまして、令和3年度の花育推進事業の取り組みについて説明いたします。資料2をご覧ください。

1、花育に関する情報発信として、「花育通信」を発行しております。7月に発行したものを資料として配布させていただきました。発行部数は限られておりますが、市ホームページからも閲覧可能で、アクセス数も伸びております。

2、花育の日における普及活動として、花育月間の4月には、令和2年度と同様に花育の日協力店や食育・花育センターと連携し、のぼり旗の掲揚、花の種プレゼントなどを実施しました。10月の取り組みとしまして、令和3年度新たにいくとびあ食花運営グループと同時開催で、花や緑に特化したイベントを開催する予定としています。10月16日土曜日に、いくとびあ食花の花と緑の展示館において、食と花推進課主催で花育マスターや花小売店などによる花育体験のワークショップを開催します。花育の日の認知度向上のPRとともに、花や植物に直に接する体験を行い、楽しみ方を実感してもらう内容としています。初めての試みとしまして、いくとびあ食花主催のにいがたフラワーマルシェとの同時開催となります。にいがたフラワーマルシェでは、SDGsを推進するお花のリサイクルマーケットや寄せ植えコンテストをはじめ、植物販売、植物をテーマとしたハンドメイド作品などのマルシェ、ワークショップ、出張園芸相談など、さまざまな企画を用意しています。花育マスターに活躍いただく機会として、また広く植物に親んでもらう機会となるよう、準備をしているところです。花育マスターと花育の日協力店の方からは、この度ボランティアでのワークショップ開催にご賛同いただき、実施することとなりました。詳細が決まりましたら、情報提供させていただきたいと思っております。

資料裏面の3、花育俳句につきましては、募集のチラシをお配りしました。

	<p>3回目となる今年は、お題を新潟市食と花の名産品であります「チューリップ」、「ユリ」、「アザレア」、「ボケ」の4部門としまして、各部門一人1句まで応募可能としました。今年度の花育俳句事業の実施にあたりまして、新潟県花き振興協議会と新潟県花木振興協議会からご協賛をいただきまして、優秀句として選ばれた方々に鉢花や切り花をプレゼントさせていただくことになりました。この場をお借りしまして、改めてご協力に感謝申し上げます。花育俳句の募集期間は、9月1日から11月30日までです。皆様から広く取り組んでいただき、全国に向けて新潟市の花育を発信していきたいと思っております。</p> <p>4、関係団体と連携した取り組みです。①にいがた花推進委員会と連携した「新潟の花を贈ろうキャンペーン」として、4月29日から5月3日まで「母の日に新潟産の花を贈ろう」キャンペーンを食育・花育センターで、「にいがたサマーリリーフフェア」を7月にNEXT21で開催しました。今後、いい夫婦の日やフラワーバレンタインについても、キャンペーン実施を予定しております。</p> <p>②にいがた花絵プロジェクトにつきましては、お配りした花育通信の最後のページにも掲載しております。例年、球根栽培のために配布されるチューリップの花の部分を使いまして、多くの市民ボランティアの参加を募って花絵を制作しています。コロナ禍により令和3年度は実行委員のみでの制作となりましたが、新潟駅南口広場を彩ることができました。</p> <p>以上で、花育推進事業の取り組みについて、説明を終わります。</p>
中野会長	<p>ありがとうございました。それでは、ただいまの説明につきまして、ご質問、ご意見等がございましたらお願いいたします。</p>
中野（節）委員	<p>中野です。花育俳句の件で聞きたいのですけれども、もう何回もやられている活動だということ、この前初めて知りまして、本当に申し訳ありません。本当に花を文字で表していく、心で表していく、とても素敵なことなのですが、私のアンテナが錆びていまして、それをやっぴらっしゃるといことがまったく伝わってこなくて、とても残念です。私もいろいろな子どもたちや高齢者の人たちと本当にたくさん花を通じて知り合っているのですけれども、どのようにして今までこれを伝えてきていたのか、今後どうやって私たちは伝えていったらいいのか、その辺のところをお聞きしたいと思います。</p>
事務局	<p>中野委員、ありがとうございます。今回で3回目を迎えるのですけれども、去年までは市報にいがた、ホームページ、それからチラシ等を市の関係機関や食育・花育センターに置いて広報するという形をとっておりまして、また、応募者数の7割、8割が全国なのですけれども、これは民間の懸賞サイトから掲載してもよろしいですかというお話があったので、ぜひということでそちらに掲載されているということで、全国の方からそのサイトを見ていただいて応募</p>

	<p>があったということになります。新潟市民の方に対しての広報がいまひとつ広がっていないというのは確かでありまして、今年度はその部分、一応、小中学校向けにも送っているのですけれども、その部分をもう少し強化していきたいと思います。今回、8月30日から9月3日まで、FM KENTOが毎日この俳句募集について放送してくれるということですので、もう少し新潟市内、市民の方には浸透していくのではないかと願っておりますが、今後、市民向けに対した広報を、今年は頑張っていきたいと思いますので、推進委員の皆様にもぜひよろしく願いいたします。</p>
中野会長	中野委員、よろしいでしょうか。
中野（節）委員	はい。ありがとうございます。
中野会長	ありがとうございました。ほかにございませんか。
北澤委員	私も続きで俳句の件なのですけれども、こういう活動をして、入選された方にプレゼントをして、ホームページで公表されるという以外に、それを利用して、その俳句を使って何か一般に広めるというか、そういうことは何か考えはありますか。今までやって。
事務局	<p>1回目の俳句募集のときは、その俳句を全部、食育・花育センターに掲示させていただいて、皆さんに実際、投票してもらおうということで、広く皆さんの作品を発表できる場があったのですけれども、昨年からは、今回のコロナ禍のこともありまして、人を集められないという事情もありまして、ホームページのみの掲載と、私どもと食育・花育センターのスタッフ等での審査という形をとらせていただいております。</p> <p>今回も、まだコロナが続いているので内部選考にはなってしまうのですけれども、今後、このコロナが落ち着いて、また皆さんに見ていただける場をつくれるようであれば、もっと他のところに掲示して、皆さんに広く見ていただくようにしていきたいと思っております。また、入選句だけにはなりますけれども、花育通信に掲載させていただいて、それを皆さんに見ていただく。それから、令和2年度ですけれども、秋葉区の小合小学校の生徒さんから作品をたくさん出していただいたので、これを秋葉区役所で掲示させていただきましたので、できるだけ皆さんに見ていただける場をもっていきたいと思っております。</p>
中野会長	北澤委員、よろしいでしょうか。
北澤委員	はい。ありがとうございました。せっかくだから、何かとコラボできたりとかしたらいいなど。商品につけるとか、あったらいいなど思いました。
中野会長	その辺り、コロナが収束した後は、ぜひ話し合っていたきたいと。この委員会も含めてですね。

北澤委員	ありがとうございます。
中野会長	<p>ほかにいかがでしょうか。</p> <p>それでは、少し時間が押していますので、次の議題です。(3)「新潟市第3次花育推進計画の策定に向けて」の説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>それでは、説明をさせていただきます。資料3をご覧ください。新潟市第3次花育推進計画の策定に向けまして、まず、事務局から新潟市の現状などについて説明させていただきます。その後、花育事業につきましては、中野節子委員からご自身の体験報告をしていただきまして、中野委員の報告を受けて、委員の皆様から質問を含めまして花育を通して目指す姿、方向性などについて話し合ってくださいと予定としております。</p> <p>まず、新潟市の現状についてです。人口の現状につきまして、「第2期新潟市まち・ひと・しごと創生総合戦略」からの引用となります。本市の総人口の推移、推計のグラフがございます。1955年から2005年までは増加しておりますが、2010年に減少に転じまして、男女ともに今後の減少が見込まれています。</p> <p>続きまして、年齢階級別の人口移動の状況は、2016年より社会減が継続しています。特に大学などを卒業し、就職する年齢層の20から24歳の転出超過がもっとも多くなっておりまして、その傾向は年々拡大しています。この若者が進学及び就職のタイミングで市外へ転出している現状を踏まえて、市では、「若者の市外転出の意向状況にかかるアンケート調査」を2019年に実施しています。アンケート調査結果の「市内企業の認知度と情報入手経路（高校生・大学生等）」を見ますと、全体の48.3パーセントが市内企業についてあまり知らない、6.3パーセントがまったく知らないと答えており、学生は新潟市の企業やそこで働く社会人について必ずしも十分な情報を得ないまま就職活動に臨み、県外での就職を決めているという実態がうかがえます。次に、地元企業に関する情報の入手経路についてです。学校行事、マスメディア、家族・親族からの情報、SNS、職業体験、インターンシップが上位を占めています。</p> <p>続きまして、新潟市の農業の現状についてです。令和元年の市町村別農業産出額では、新潟市は565億円で、全国第5位の大農業都市となっています。次に、花きに関するデータを都道府県別で見ますと、新潟県はゆりとチューリップの産出額が全国第1位、花木類は第2位となっております。花きの作付面積においても、新潟県の全国順位はゆりと球根類で第1位、鉢ものの類で第3位となっております。</p> <p>次に、新潟市の全国順位を見ていきます。平成30年市町村別農業産出額において、新潟市の全国順位が高い品目は、上から順に米、大根、西洋なし、すいか、花きで、花きの全国での順位は11位となっております。花き類の栽培面</p>

積・経営体数でも、新潟市は全国第5位、第4位と順位が高く、県内順位は第1位です。参考としまして、花きの消費について、家計調査から見てみますと、1世帯当たりの年間の支出金額では、新潟市は切り花の支出が全国平均より高く推移していることが分かります。

新潟市では、自信をもって全国に誇る自慢の農畜水産物を「食と花の名産品」として指定し、全国に向けて発信しています。この「食と花の名産品」について、首都圏と新潟市内における認知度を示す表があります。平成25年に調査したものとなります。中でもチューリップは市内における認知度が60パーセントを超え、ほかと比較すると高くなっていますが、首都圏での認知度はいずれの花も10パーセント未満にとどまっています。クリスマスローズ、ホワイト阿賀、アザレア、ボケについては、首都圏のみならず、市内においても認知度が20パーセント未満と大変低いことが分かります。このように、新潟市が花の大産地であることの認知度の低さが、依然として課題となっております。

次に、新潟市花育推進計画についてです。平成20年に「食と花の政令市にいがた」としまして、豊かな自然・田園や花の生産地と都市が近接している利点を活かし、食育と並び花育を推進するために策定しました。平成27年4月に基本理念を継承しまして「第2次花育推進計画」を策定し、令和5年4月に「第3次花育推進計画」を策定する予定となっております。

次に、計画の位置づけです。新潟市の総合計画であります「にいがた未来ビジョン」が最上位計画としてあります。その下に農業に関する分野別計画の「新潟市農業構想」があり、さらに花育に関する分野別計画として「花育推進計画」を策定しています。いずれも計画期間は令和5年度から令和12年度の8年間です。そのため、花育推進計画は新潟市総合計画の方向性と整合し、花育推進計画に基づいて花育を推進することにより、「にいがた未来ビジョン」で目指す都市像の実現に寄与することになります。

次に、経済・社会情勢の変化についてです。新型コロナウイルス感染症の影響として、地域経済の疲弊と雇用情勢の悪化、コミュニティ活動の停滞が危惧されている一方で、新しい生活様式の定着、デジタル化の進展、地方移住への関心の高まりなど、価値観や意識の変化も見られています。急速な人口減少、少子高齢化、若い世代の東京圏への流出が顕著となっているほか、気候変動の深刻化、持続可能な開発目標であるSDGsや脱炭素への意識の高まりも挙げられます。また、民間事業者をはじめ、多様な主体との協働、連携体制を構築して強化していくことが求められています。

以上のような経済・社会情勢の変化を踏まえまして、課題を認識し、花育で目指す姿、将来のあるべき、ありたい姿を検討し、その方向性をもとに花育推進計画を策定したいと思っています。



	<p>次に、第3次花育推進計画の策定のポイントとしまして、SDGsの視点を挙げました。SDGs、持続可能な開発目標とは、将来世代のニーズを損なうことなく、現世代のニーズを満たす開発と言えます。新潟市が目指す持続可能なまちづくりとは「未来の子どもたちが住み続けられる新潟市」をつくることと言い換えられます。外務省のホームページからSDGsの各目標、ゴールが期待された部分を資料につけてあります。花育推進計画の策定におきましても、SDGsの視点を取り入れていきたいと思っております。</p> <p>それから、次の資料ですが、令和2年度の花育推進委員会で配布させていただいたものです。簡単にご紹介しますと、花や緑の効用、花の産地、環境というこの三つの歯車がうまく噛み合うことが新潟市らしい花育ではないかと考え、歯車は離れていてはうまく回らないため、関係団体が連携して歯車をうまく回していきたいということを表したものです。さらに、歯車をうまく回すために、潤滑油としてボランティアなどの市民活動が考えられ、見附市のイングリッシュガーデンではボランティアが積極的に運営にかかわっていますし、新潟でも拠点施設であるいくとぴあ食花をはじめとしまして、市内での市民活動を活発化することができればと考えています。</p> <p>次に、スケジュール案についてです。当委員会は通常年1回の会議ですが、第3次の計画策定のため、今年度は2回、次年度は3回の会議を予定しております。第2次計画の現状把握や第3次の計画の方向性の検討を行い、それを受けまして、骨子案、計画素案の検討に入り、市民向けのアンケートなども実施したいと考えています。令和4年度は、計画案をより具体化していく作業になります。目指す姿、方向性を確認し、そこに向けた施策を考え、数値指標を設定していきます。委員会での検討を踏まえ、議会報告やパブリックコメントを経まして、令和4年度末に公表し、令和5年度から第3次の新計画の開始となっております。</p> <p>最後に、新潟市花育推進計画の施策体系を表した図がございます。現行の計画は、理念、施策方針、施策の三層構造となっております。第3次花育推進計画の策定にあたり、本日の第1回委員会では、図の一番下に矢印で示してありますとおり、花育を手段と考えて、目的である目指す姿について、まず考えたいと思っております。本日の委員会の後半では、花育で目指す姿について、皆様から意見交換をしていただきまして、そこで方向性を確認し、次回以降、その目指す姿に向けて施策を具体化して考えていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。私からは、以上です。</p>
中野会長	ありがとうございます。それでは、ただいまのご説明に関しまして、ご意見、ご質問等がございましたらよろしくお願いいたします。いかがでしょうか。
村井委員	いいですか。言葉だけの問題だと思うのですがけれども、今の花育推進計画の

	<p>施策体系の中の 14 ページのところ、施策方針に「花や緑」と書いてあって「花や緑」に親しむ場の整備を、「花と」にしたらいいのではないのでしょうか。日本語の使い方だと思うのだけれども、「花と緑」のほうが言葉尻は合うのではないかと思ったので、そのような言葉にしたほうがいいのかと今、思いました。だから、上のほうの「対象」も、「花や緑」を、「花と緑」というように、「と」にしたほうが耳障りもいいかなと、目障りも含めて思ったので、お願いしたいと思います。</p>
中野会長	<p>そのあたり、いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。そうですね。「花と緑」の方向で考えたいと思います。</p>
中野会長	<p>ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。</p> <p>今回、最後にも意見交換というタイミングがございますので、このあたりで次に移りたいと思います。よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、続きまして5番の「事例研究」として、中野節子委員より「花育事業体験報告」をお願いいたします。</p>
中野（節）委員	<p>皆さん、改めましてこんにちは。初めて委員にさせていただきました中野節子と申します。何となく花に携わってやってきたことが花育だったのだという感じで 10 年間過ごしてまいりましたけれども、私の体験報告をさせていただきたいと思います。</p> <p>事業は、秋葉区にあります株式会社大郷屋種苗というところで、明治創業の種や園芸資材、花き園芸業の卸業をしております。併せまして、先ほどもお話しいたしましたけれども、NPO 法人の代表理事といたしまして、障がい者にいかに仕事をしていただいて社会復帰を目指すか、戻るのかというところで、就労継続支援 B 型の事業をしております。</p> <p>時間がないので仕事の話はこのくらいにいたしまして、私が 10 年間やってきた花育の活動の目的というものを改めて考えたのですけれども、もともと秋葉区というのは、花の生産地である。生産地ならではの花育とは何なのだろうか、花とは何だろうか、花を使ってコミュニケーションをとるのは何なのだろうかということに、いつもクエスチョン、クエスチョンで過ごしてきたように思われます。ベースの中では、やはり私どもも花き園芸業に携わっておりますので、産業の活性化と、併せまして地域住民の地域活性ということを目的としながら活動をやってまいりました。私、実は花育に関しては、やらせてくださいと言って始めたわけではなく、どうしても 100 年企業でございますので、何かできないのでしょうかということいろいろな方から提案をいただきまして、どうですかということがありまして、では花にかかわる産業なのであれば何かできることはないのかなということで、花育活動というところに入ってきたの</p>

でございます。ですので、活動の目的というのは、当初は産業活性、秋葉区の花をもう少し元気になりたいというのが、私の最初の目的でございました。

そうなのですけれども、活動をしているうちにいろいろな事実が見えてまいりまして、これでいいのかなというところがたくさん出てきました。

ここ10年、実は2011年から始まるのですけれども、東北大震災のときに、花で心が変わるという体験をさせていただいたのです。多分、資料で皆さんのところにあるかなと思うのですけれども、皆さんのところにこのようなものがあると思うのですが。それは、花いっぱい運動でしょうか。「新潟は花の名産地 もっと新潟の花を知ろう 生活に花を取り入れよう」ということで、小合小学校の5年生、6年生の皆さんのところでお話をさせていただきました。その中の内容として、被災地である南相馬の大甕小学校に小合小学校の子どもたちが作ったお花を現地まで持って行って、現地で植え込んで、そして花壇作りの手伝いをしましょうという活動をやらせていただきました。そのときに、本当に子どもたちが、被災地ですので、花壇が全部、自衛隊が来ていて、除菌もされ、何も無い状態のところ、学校に草木1本ない状態から始まっていたのですけれども、そこに小合小学校の子どもたちが作ったウィンターコスモスだったのですが、それを持って行き、合わせて球根を植え、花壇整備をさせていただきました。そのときの写真が残っているのですけれども、そのときに、花は力があるなと感じたのが一番です。

同じ時期に、新潟のアザレアを被災地に持って行きました。これは、ただ持って行けばいい問題ではなくて、タイミングが必要なのです。向こうが必要なときに、必要なだけ、必要なものを持って行く。ちょうどそのタイミングが花だったのです。早くてもだめだし、遅くてもだめ、今のタイミング、オンタイムのところを持って行ったところで、向こうの被災地のおばあさんが涙を流しながら「花っこが欲しかったのですよ」と言って、泣いて私の手を握って花を受け取っていただいたことを見たときに、花は力を持っているなということを感じました。

そのときに、これをもう少し皆に分かってもらいたいし、もっと違う活動がないのかなと思っていたところ、行政の方と秋葉区の花の産地に皆を呼んでくださいという「花と緑のバスツアー」というものをやらせていただきまして、これが何と定員20名のところに150名くらい集まる大人気講座になりまして、年に3回くらいやるのですけれども、どこも100人超えの応募で、産地を回り生産の人の話を聞きながら、あとは私と一緒に新潟の花は何だよねとか、アレンジメントは楽しいよねという話をしながらお食事をして一日が終わるといようなツアーをずっと続けさせていただいた結果として、新潟の花、特に生産地には魅力があるということを感じました。

もう一つは、それをやり始めて 2011 年から始めたのが、高齢化社会に対する、花育を使ったコミュニケーションを図ろうという活動です。今でも続いているのです。今日もやってまいりました。毎週金曜日、午前中、地域のおばあちゃんたちがワンコインを握りしめ集まって来るのです。毎週来るのです。皆やめない。なぜ来るのですかと聞くと、もうここに来るのが日課になった。花があると皆と話せるのがいい。花の先生になる気はないと言うのです。天国に行ったら先生になればいいのだと言って、もう 10 年間通い続けて、毎週金曜日に通い続けて来てくださっているおばあちゃんたちが 10 年、12 年でしょうか。そのように、仲間づくりであるとか、コミュニケーション能力の高まりであるとか、やはり世代交流もできていくという、とてもすごいというものを感じました。

そのようなことをしているうちに、子どもたちの花育指導をやっていただきたいということがありまして、各幼稚園、保育園で花の指導をしていくのです。秋葉区周辺の保育園と幼稚園、多分画像が出てくると思うのですけれども、子どもたちに目を据えていきます。大体その園の方針に従って、花は教えるのですけれども、私に何かプラスアルファも話してくれというので。画像が出ると思います。皆さん、フラワーアレンジメントをやっている方は、大抵同じように指導をやられると思うのですけれども、その中でプラス何かを教えてもらいたいと言うのです。最初のころは、感謝する心とか、頑張る心とか、お片付けとか、いわゆる当初の花育の目的と同じ、優しい心を育みたいという幼稚園サイドの要望に従ってやってまいりました。そのうち段々と、これです。新津第二幼稚園は六、七年続いているのですけれども、最初のころはこうやって自分で頑張ろう、お花はきれいだね、新潟の花大好きだよというような、例えば出来上がったものをどうすると言ったら、お家の人にあげる、喜んでもらうという、いわゆる感情論だけなのです。感情を育むという作業をやるのですけれども、そのうち社会でいろいろな問題が見えてきます。いじめとか、ひきこもりとか、コミュニケーションが取れない、困ったことが相談できないというような子どもたちがたくさん出始めてきます。どうしようかなと思ったときに、私、次の策を考えまして、まず私の話を聞く、そして聞いて自分で理解する。とりあえず自分で頑張ってみる。そして頑張ってもどうしてもだめなときに皆どうすると聞くと、先生を呼ぶと言うのですけれども、先生は 40 人に呼ばれたら行けないからだめだと言って、周りに聞きなさいと言って、隣同士で協力して、隣同士でお話しができて、そこで解決できたらそれで終わり。どうしても隣同士でだめだったら、そのまた隣の人に聞きなさいと言って、自分と自分のお友達でいろいろなことを解決するというトレーニングを 1 時間のうちにするのです。そうすると、きちんと子どもたちは、まず自分で、だめだと

隣の子にこれはどうするのだったっけときちんと聞くのです。その子が分からないと、そのまた隣の子に聞くのです。何となくそこで出来上がって、私を呼ばなくなったのです。ですので、大体講座は40人とか50人でも、私の活動はほぼないのです。子どもたちだけで支え合うとか、教え合うとか、分からないの教えてとか、助けてという、ヘルプを出せる子どもたちが最近やっと出てきたような気がします。そのように子どもたちの花の指導も、フラワーアレンジメントという一つのキー、いわゆる花育というキーワードを使って、子どもたちの社会に出てからの心の強み、例えば困ったときはどうすればいいのか、自分一人で解決できないときに友達にどうヘルプを出すのかというトレーニングがここでできるようになります。

そのうちにいろいろなところで活動するのですが、障がいをもった子どもたちの指導というものも入っていくのです。いわゆるアスペルガーとか、多動であるとか、精神疾患をもった子どもたちに健常の子と同じように作業をさせるのですが、やはりどうしても遅れてしまうということがあります。そここのところは、お隣の子がきちんと障がいの子をケアする。私ではなくて、友達同士がケアするというのを1時間通してやると、そこで子どもたちは、新しい輪ができあがって、子どもたちは障がいの子も一緒だよという感覚が身についていったのです。これはすごくいい経験だったと思います。

もう一つ、私は今、障がい者の支援事業をやっているのですが、障がい者が花に携わっていくというのは、もしかすると社会を変えていくすごいきっかけになっていくのかなと考えながらやっております。ですので、花育の10年間の推移というものが、最初は内面の問題、優しい心、先ほどありましたよね。花育の目的、令和2年度のこれです。花育とは、花と緑に親しみ、育てる機会を通して、優しさや美しさを感じる気持ちを育むこと。これは、本当に花育のベースだと思うのですが、それがあって、次どうするという次元になってきたのかなと思っております。

実は、私、2歳から101歳まで同じ指導をするのです。2歳児も101歳も理解度は一緒です。お花に対する感情も全部一緒です。花を見て、さあ、皆どう思いますかと3歳児に聞くのと、小学校6年生に聞くのと、同じ反応をするので、私は6年生には、ここに月潟小学校があるのですが、小学校の子には、あなたたちの返答は3歳児と一緒にだから、もう少しレベルの高いワードをつくってちょうだいと言うと、想像力をつけていろいろなことを話してくるのですが、基本的には一緒です。きれいだとか、優しくなびくとか、心が癒されるとかというようなことを言うので、2歳児から101歳まで花を使った活動というのは、同じベースまでもっていける。もっていけるのであれば、その次、何を伝えていくのかというのは、花育は目的ではなくて手段ではないか

など私はずっと考えるようになりました。実は昨日、自殺防止のケアをする団体のトークネットと話をしていた、大事なことは、誰かに困ったことを伝えられる、自分の気持ちが伝えられるということが大事だというお話を聞きまして、これは私が感じていたことと一緒に、すごく感動いたしました。

では、画像を少し見ていただいて、今出しているのが、月潟小学校で文化祭のときです。4年生なのですけれども、大体予算がないものが私のところに来るのです。予算がないのでどうにかしてくれと言って、分かりましたと言って、全員で一つのものを作って展示しましょうと。このときも、一人ずつ1本ずつ持って行って、ただきちんとテーマを決めるのです。このお花のテーマは何だというのを決めて、作って、最後に入口のところに飾っていただく。これはすごく大盛況で、去年はコロナ禍でできなかったのですけれども、今年度もまた月潟小学校でこういうことをやりたいねという話がきました。

そのような感じで活動を続けておりまして、それから亀田東小学校です。これはお花の教育ではなかったのですけれども、キャリア教育、自分の未来を考えるという教育で、6年生でした。フラワーアドバイザーというのはどういう仕事をするのか、花にはあまり興味がないけれども聞いたことがないから聞きたいという子が40人くらい集まってきて、私の花に対する考え方をお伝えしたのですけれども、そのときも、残念ながら新潟が花の産地だということは誰も知りませんでした。そうなんだと。だから何という感じなのです。農業があって、だから何。でも、新潟に農業がある。その中に花がある。それは、今の日本にとっても大事なことなのだよということを伝えるのですけれども、ここでSDGsの話をするのです。今、環境問題であるとか、未来に自分たちがきちんと住んでいける持続可能な社会なのかということというのは、世界の子が考えているのだよという話をするのですけれども、その子たちは、日本の子どもたちは分からない。でも、世界の子どもたちはもう分かっているのに、あなたたちが分からなかったらどうと聞くと、恥ずかしい、僕たちも勉強したいと。そして、勉強したい、興味をもつ、花というのは何だろう、新潟の花というのはどういう位置づけになるのだろうかということが、自分が調べていく結果になっていくのだと思うのです。最終的に彼等から受け取ったアンケートの中で、感想文の中で、花になどはまったく興味はなかった、だから何と思ったけれども、そうやって環境問題であるとか、自分たちの未来につながると考えたら、花、俺たちもう少し勉強しなければいけないし、すごく興味をもったというアンケートがたくさん返ってきたのです。ですので、最初から言いますけれども、花育が目的ではなくて、花育を使って彼らの心をどう動かすのかということがすごく大事になってくるなと思います。

最終的に子どもたちに教えたのが、私は花屋ですよと。花屋の私がやりたい

ことは、自然を守って人を守ることですよ。そのために私は何をやっているのかというところでこの矢印で、こういうことを教えていくのです。花を使う、花を教えるだけではなく、その先に何があるのか、新潟の花は何なのか、新潟の農業生産を守って食を守るといのはどういうことなのかということ、6年生くらいの子はしっかり分かってくれます。特に新潟、食の産地、新潟は米と酒があるよね。その意識はすごく植えつけられるのですけれども、その先がつながってこないという、そこをつなげていきたいと思って、小学校の高学年、中学生くらいにはこの話をさせていただいています。

それから最近やっているのが、障がい者の人たちにアレンジメントの作品を作ってもらっています。私、もう直さないで、彼らの感性で作ったものを商品として売っています。それがすごく認められて、今後は、企業も買ってくださいなのですが、いわゆる官僚とか国会であるとか、そちらにもつなげていこうという話もありまして、この10年間やってきたことですごくつながってきたなと思っています。

今ですけれども、いろいろなところから花に関する手伝い、花育と違うのですけれども、花に対してのアドバイスをしてくださいということで、胎内市の3か所のところで花いっぱい活動ということをやっております、そこでどういう花をどのように飾ったらきれいかなということアドバイしながら、現場で植え込み作業をします。このとき植え込み作業を手伝ってくれたのは、障がいの人たちです。うちの施設のメンバーであって、植えていきます。本当に彼等は自信がないのですけれども、1,000ポットくらい植えたのです。彼等だけで一生懸命1,000ポット植えて、出来上がったものを見て達成感ですごくきれいにできたという、そのやりがいというものが花ですごく伝わるなと思いました。

その下、十日町なのですけれども、十日町では「花は咲くプロジェクト」というものをこの4月からやっていただいて、私と障がい者が行くのですけれども、田植え事業をやったり、先月は寄せ植えセミナーに参加して、ちょうどコロナで現地の人が集まらず、地域で使うプランターを30か50くらいだったでしょうか、作らなければいけなかったのですけれども、全部彼等が作って、このような感じでセミナーをやったりしました。花育は彼らの自信になるし、障がい者にはすごくいい仕事なのだよという話をさせていただいて、新聞に載せさせていただきました。それから、五泉市でも100プランターくらいを商店街に並べたということも彼らもやってくださっています。

今まで、私、産業ですので、花の消費をメインに考えていました。花が好きな人、花に興味がある人、生け花をやる人、アレンジメントをやる人たちに花を売ればいいと思っておりましたけれども、いわゆる花を消費する対象ではな

	<p>い障がい者のほうが、逆にすごく反応もいいし、実は今まで消費に向かっていなかった人たちにその活動をやらせることで、マーケットも広がっていくし、彼らの仕事にもなっていくということを、すごく手応えを感じておりまして、今後も続けていきたいと思っております。コロナ禍でいろいろなこと考え方が変わってきました。ビジネスも変わってきました。ただ、やるべきこと、例えば心棒、心の棒と書くのですけれども、活動の中心になるものは変えてはいけないと思います。新潟市が10年間やっている花育、その花育をベースとして次の10年間はどうかというのは、今後、皆さんで考えていったらいいのかなと思っております。</p> <p>この10年やって、花はいいビジネスツールだなということを感じています。これは、いい意味でも悪い意味でも。例えばラーメンという、好きな人と嫌いな人が絶対出てくるのですけれども、花という、嫌いという人は皆無です。お花が嫌いという、よほど何かあったのかなと思いますけれども、皆が好きな花というものを手段として新潟がもっているのであれば、共通のキーワードとして次の未来の、環境問題もそうですし、少子高齢化もそうですし、共生社会もそうなのですから、そこを生き抜くためには、いわゆる花育、花、緑を使った活動というものがとてもいいのではないかなと思っております。これから皆さんで話し合いをしていただくようですけれども、委員会の中で、目的意識の共有をぜひしていきたいと思っております。そして、できるだけ自社の強み、皆さんはいろいろなビジネスをやっているし、いろいろな活動をやっているし、自分のところはこの強みがある、この強みを活かしたいというものをベースに入れながら、ぜひ花育活動の心棒を作って今後の活動にしていけたらいいのではないかなと思っております。</p> <p>とりとめのないお話でございましたけれども、ぜひ新潟の花、本当に皆さんは第一人者で頑張ってきていただいて、すごくありがたいです。私は本当に一花育マスターとして、現場で子どもたちから高齢者まで付き合わせていただいて感じたことを今話させていただきました。現場の仕事、いくらでもやりますので、ぜひ上層部で考えて、いろいろな方向性をつくる方々は、一つの方向性と正しいことをもちながらやっていただきたいと思います。以上です。長くなりました。すみません。ありがとうございます。</p>
中野会長	では、ここで休憩に入りたいと思います。
事務局	中野会長、時間があれなので、もしであれば休憩なしでこのまま進めたらと思うのですが、皆さん、いかがでしょうか。
中野会長	<p>皆さん、大丈夫でしょうか。それでは、休憩なしで連続して進めていきたいと思えます。</p> <p>引き続き中野節子さんから、皆さんに。</p>



中野（節） 委員	すみません。今説明させていただきました中野でございます。本当に花育マスターの活動だけしかしていないので、大きなところまでは見えませんが、今回、皆様のご意見などを集約させていただいて方向性を進めていくのに、私が司会をさせていただきたいと思うのですけれども、よろしいでしょうか。大丈夫でしょうか。
中野会長	よろしく申し上げます。
中野（節） 委員	<p>よろしくお願ひいたします。本当に長く話してしまって申し訳ございません。ぜひ皆さん、いわゆる「心棒」になるもの、自分の仕事、これが強みなのだからこれを目的の中に入れてみたいというものを、ぜひ皆さんで話させていただきたいと思うのですけれども、いかがでしょうか。教育関係の方が多く、いろいろ教えていただくことが多いと思いますけれども、いかがでしょうか。</p> <p>今、最初にいただいた資料のところ、これの14ページのところに「花育推進計画で目指す姿勢（目的）は？」というところがあります。花育は手段であって目指す姿が最終的な目的、皆さんにはどのような目指す姿があるのかなど。例えば花育とはこういうものだよねというのが、皆さんそれぞれ、最初にお話を伺ったときにいろいろなご意見がありました。花育活動でこういうことをやっていますよと伺いました。花育活動で今やっているものを、最終的な未来でどのような形にしたいのかなという、していきたいのかなというものを、もしありましたらご意見をお聞かせ願ひたいと思います。今の活動をとおして未来をどうしたいのかというところが、多分次のステップの目標になってくるのではないかと思うのですけれども、いかがですか。どうでしょうか。中野会長。</p>
中野会長	では、よろしいですか。今日、非常に今までと違った視点の話を聞かせていただいて、目からうろこ的な感覚を今味わっているのですけれども、特に花が力をもっているという体験の話が前半に少し出てきましたけれども、やはりそこを、私などは大学教員として、大学生だと小学生とか中学生と比べて少し鈍くなっているのは間違いないのですけれども、そういうことをやはり分かってほしいというのはすごく感じました。やはり花に興味がないということ言う学生がたくさんいるのです。でも、大なり小なり花はいいものだと思ってもらいたいということを常に思っているのですけれども、ただ、それが産業とか新潟市とかというところになかなか結び付かないというものもあるのです。だから基本としては、やはり本当に多くの人に、ただ単に花が嫌い、嫌いではないだけではなくて、何か今よりも強い思いをもってもらいたいというのは感じます。やはり花の効力ですよ。先ほど力ということがありましたけれども、例えば優しい気持ちになれるとかということ、やはりいろいろな方に理解していただけると思うのですけれども、それが次の、いろいろな各自、そこから

	<p>は人によって違うと思いますけれども、いろいろな行動につなげるようなことができていけるとすごくいいのではないかと思います。</p> <p>すみません。かなり曖昧な意見で申し訳ないのですけれども、改めてそのように危機感を感じました。</p>
中野（節） 委員	<p>ありがとうございます。本当に花のもつ力、効力というのは計り知れないものがあるなど、私も日頃感じています。ぜひ多くの人たちにこれを体験してもらうために、今、私は二つ手段があると思うのですけれども、本当に広く新潟の花はいい、新潟の花は最高だ、新潟の花の大ファンだという、そのファンをつくるための活動が一つ。それから、やはり経済力だと思っています。いかに売れていくか、新潟の花が売れていくか。今回のメンバー、委員会の方たち、本当に教育関係の素晴らしい方々と、あとは販売ですごく頑張っていっしょやる、多分二つの路線になっていくと思うのですけれども、そこがうまく噛み合いながら前に進んでいくのが新潟らしいのかなと思っております。</p> <p>では、生産のほうでは片岡さん、いかがでしょうか。</p>
片岡委員	<p>少しピント外れかもしれないのですが、現在の新型コロナウイルス感染症、新潟県も、新潟市も、そのステージが悪いほうにきているようなのですが、将来、産業、あるいは企業の規模で見てもいいのですが、花づくりを中心としたビジネスは、やはりむしろ小企業でうまくやっていける可能性が高い、あるいは大企業、中企業向けではない組織の中でやっていけるのではないかな。それからもう一つは、大地と密接に結びつくところもあるのかもしれませんが、機械化を進めていくにしても、あるいは今どちらかの文書にも出てきていましたけれども、後継問題、私どもの花き産業もそうですが、大規模化で事業を凶っていく、あるいは国内の業界のことを考えるのではなくて、むしろその組織や事業のあり方というもの、少人数でもやっていける、あるいは大組織でなくても、中組織でなくてもやっていけるといいうところに、何か少し光が見えるのではないかなという、少しずれている話かもしれませんが、本当にそう思いました。</p> <p>うちの連中も、うちの会社の連中も、今極めて、本来であれば、今でもオランダ人が来たり、私たちがオランダに行ったりしている最中なのです。あるいは全国、私どもの産地は県外向けもけっこう多いものですから、例えば首都圏に行ったり、埼玉県に行ったり、高知県に行ったりといっても、今やここ三、四週間は誰も、社長以下皆やめているし、そして誰も来ません。だからこういう中で、大変だといいうところから何かを探り出して吸い付けられる、その私どもがかかわるキーポイントは、小さくてもとにかくやっていけるという事業、ビジネスのあり様が花木には必要かな、あるいは農業全体の原点なのかもしれない。当然、大規模農法もありますけれども、花の分野はあまり、特に日本人が好む花の分野については、大企業、あるいは大組織、中組織ではできないの</p>

	ではないかという、感覚的なものですが、以上です。
中野（節） 委員	ありがとうございました。生産現場の問題点というのは、やはり片岡さんが一番敏感なのかなと思っております。切り花の消費の関係で、玉木副会長。
玉木副会長	<p>流通からデータをお話しさせていただきます。答えになっているかどうか分からないのですが、参考にさせていただけたらと思います。</p> <p>日本全国の卸売市場協会にも所属しているのですが、今期の北陸市場、富山、福井、石川、新潟、ここでまとまっているのですが、その市場は花の流通の売上が一番落ちています。それはコロナのせいもありますけれども、1月の大雪のせいもあって、我が社も疲弊していますし、生産者も疲弊しているというような状況です。特に新潟ですけれども、チューリップが昨年売れなかった。いろいろな力をお借りしまして、さぼくということはできたのですが、チューリップが振るわなかった。近年ずっとそうなのですが、チューリップの生産者は油代もかかりますし、確実なデータでは1割は減っています。生産が減っていますし、ユリも生産が減っています。ユリも減っているのは、ユリはどうしても業務需要が多いため、婚礼とか葬儀関係でたくさん使われるのですが、婚礼はない、葬儀もほとんどない、使われなくなったということで、新潟はチューリップとユリでもっていますけれども、打撃を受けております。</p> <p>それにもう一つ、新潟市についてなのですが、私が小さいころとか仕事をし始めたころは、新潟の竹尾とか大江山とか北山とか、そういったところでお盆の花とか、そういったアスターとかケイトウとかオミナエシとかススキとか、菊などもそうなのですが、全部そろっていたのですが、今年は、高齢化と花の値段が思ったほどでないということで、けっこういろいろな人たちが花の生産を辞められました。プラス、もう歳なので規模を縮小してというか、生産もほとんど少なくなっていました。足りない分はどうしたかという、岩手とか秋田とか、どんだん花の生産の強い県のものを引っ張ってきて新潟の花々に間に合わせるような形をとっておりました。販売もそうなのですが、生産を振興していかないと、新潟の生産が振るわなくなっているということで、そのようになっています。</p> <p>それから、根本の話なのですが、若いころはいろいろ考えました。なぜ花を飾るのかなと。なぜ仏壇に花を飾るのかな。なぜ人に花をプレゼントするのか。なぜ私はこういう仕事に就いたのかなというようなことを考えて、例えば心の病をもっている人にひまわりを贈っても元気にならないというようなデータがあるところから出てきたりとか、では心の病をもった人にどうすれば、何の花を贈ればいいのかということいろいろ調べて、大変な作業だったので調べて、ではユリがいいのではないかというデータが</p>

	<p>出てきたりとか、あとはあまり言うとおかしくなってしまうのでそういうところですけども、いろいろなデータをつかみに回っていた時期があります。</p> <p>今、生産が停滞しているので、若い人が農業をやって花を作ってくれればいいなと私は思っていますけれども、手段がまだ見つからないのが現状です。</p>
<p>中野（節） 委員</p>	<p>ありがとうございます。生産現場の大変さは、私どもは卸業と生産資材を売っているのです、私どもの右肩下がりを見るとすごく分かります。そこが一番新潟の花というものがなかなか前面に、もっと元気にならない理由なのかなと思っています。実は、七、八年くらい前に、新潟の花の生産関係と私と、それから浜松の花の生産の奥様と対話したことがあるのですけれども、すごく生産サイドの女の人たちがすごく元気でした。私たちが売っているのよ、私たちが作っているのよということを県外に行ってPRしているくらいに、すごく女性たちが元気だなと感じました。</p> <p>花は、誰が一番好きなのかというと、やはり女性が好きなのです。やはり花の好きな女性たち、今日も委員の方たち、女性が半分以上なのですけれども、まず女性たちが新潟の花というものをもっと理解して、もっと好きになって、PRしていくという気持ちを強くもってもらうためには、今一生懸命動いていただいている花育マスターのメンバーたちが何人いらっしゃるのでしょいか、たくさんいらっしゃると思うのですけれども、その人たちに情報の共有、今日の話もそうです。実は生産が落ちてきている歴史があるのに、なかなかそこが支えられないというところは、全体で共有して、例えば講座の中で今日バラを使ったのだったら、新潟はバラ以外にもこういうものがありますよと、帰りに花屋さんに行って買ってくださいます。私はけっこう言うのですけれども、先生の使った花はどこで買えるのと、花屋で買えるに決まっていますよと言って、花屋さんで買ってもらうのですけれども、花育マスターが新潟の花の現状等と問題点というものをきちんと勉強して分かってもらうことによって、講座の中に一言、二言いろいろなものを付け加えていけるのではないかと思っております。</p> <p>それから、残念ながら私は県外のお友達から言われるのは、新潟が花の産地などは知らなかったということは、けっこう言われます。それは、やはり今後考えていかなければいけないことだなと思っておりますし、まだ改善点はたくさん出てくるのだろうと思います。もしかすると、花育マスターの中からいいアイデアが出てくるかもしれないので、いろいろな人の意見をどんどん取り入れていくのも必要なことなのかなと思います。</p> <p>それから、やはり教育の分野でぜひ花を使っていたきたいと思うのですけれども、今、幼稚園の先生と校長先生がいらっしゃいますので、ぜひ学校で、今後そのような形で新潟の花を教育に取り入れていくということを、ざっくり</p>

	でもご意見がありましたらお願いしたいと思いますけれども、いかがでしょうか。阿部先生、青山先生。
阿部委員	教育現場は、子どもたちを育てるということを考えたときに、ここの推進委員会の概要には「豊かな心を育む」ということが目的になっているわけですから、生きる力をもった未来の新潟を担う子どもたちの力をつけていくということが大前提で、そういう中でどうふるさとを想う気持ちを育てていくかということが新潟の農業を支えるということにつながるから、子どもたちにも、花育、食育が大事なのだよね、本当に新潟市の良さだよということ伝えていく必要があるのですけれども、それをどう教育課程の中に取り込んでいくかということ考えたときに、花をたくさんということではなくて、やはり一つの手段としてそういうものがずっとキャリア教育に入ってくる、ずっと生活科に見えてくる、ずっとPTA活動に入ってくる、いろいろなところで一つの手段としてそういうものが入ってくるのが、学校の中では自然なのだよなど。そこで新潟市という意識をしっかりと教職員がもって指導していったり、講師の方がそういう意識で子どもたちに伝えてくださったりということなのかなと、今お聞きしていて思った感じです。
中野（節）委員	ありがとうございます。いかがでしょうか。青山先生。
青山委員	新潟市の花と言われると、少し難しいところがあると思うのですが、園の中で、普段の園の花育の活動がなかなか横ばいでというようなことがありますけれども、実は食育をやっている園はとてたくさんあると思います。食育は、苗を植えて育てて、それを食べるというところで、自分が育てたものを食べて、命をもらっているというようなことを感じましょうというところがあるのですが、花育と言われると、一人がお花を育てたときに、自分がお水をあげるという簡単な作業でもいいのですが、自分がお世話をしたものの花が開いたときに、達成感とかこれをきれいだと思うような、そういうところを目的とするのかなと思って、お花を育てることが、実は子どもたちの達成感というものに対する手段として使うということになってしまうかもしれないと思うのですが、ただ、そういったことでお花に触れるとか、実は家庭をターゲットというか、対象にしようとしたときには、実は園や小学校などが一番家庭と密着しているところがあって、そこから各家庭にお花を育ててみましょうということを、子どもから提案が親にいたりするというようなことがもしもできれば、そこで家庭の中にお花が増えて、ゆくゆくはそういう消費だとか、花が生活の中の身近なものになるというようなことにつながるのかなとは思いますが、園でできることとなれば、そうやって自分が世話をするお花を決めて育てていくというところが、まずは第一歩かなとは思

	ます。
中野（節） 委員	<p>ありがとうございます。実は、私の友達が食育推進委員をやっておりまして、食育は本当に浸透していると言っていました。なぜだろうと聞いたら、やはり確実に実がなったものを、自分で調理して自分で食べて身になる、すごく教育として食育はやりやすい。でも、花育は少しもやっとしていて難しいかもしれないよねと言われたのですけれども、ただ、新潟ならではの花育とか、特に幼稚園、保育園の小さなときに、恵まれた環境なわけではないですか。花が環境としてある。それがあるといことがふるさと感覚に結びついて、大人になって社会に出て心が折れたときに、自分には花や植物のあるふるさとがあった、農業が充実した町があったというのは、精神衛生上、精神疾患に対してなのですけれども、すごくいいということがあるのだそうですね。ですので、できれば幼稚園、保育園とか、活動に全体的に取り組んでいただけるとすごくありがたい。ただ、先生たちは忙しいので、そこはやはり花育マスターたちの力のかなと思っております。</p> <p>では、坂井さん。</p>
坂井委員	<p>私は、一昨年の小学校でのクラブ活動をさせていただいたときに、子どもたち、花に興味があると言ったのはやはり女の子だったのですけれども、男の子も入ってくれた子がいまして、その子にどうしてお花に興味をもってくれたのかと聞いたら、おばあちゃんがお家にお花を飾っているということ言ってくれて、僕もお花を飾ってみたいくなったのだということ言ってくれた子がいたのです。そのように、身近にお花があるというところから興味をもってくれる子どもたちが増えるところが嬉しかったのもありましたし、子どもたちにお花をただ飾るというだけではなくて、お花をどう管理する、どのように扱っていくというところを教えてあげると、お家にどうやってお花を飾っていいかわからないお母さんにも教えるのだよと言って、お母さんに教えてあげてねと言うと、やはりそこから家族の会話が生まれたりとか、子どもたちもお母さんもお花を飾るということに興味をもってくださったりしたのです。持って帰って終わりではなくて、自分で管理をするように子どもたちに教えていったのです。切って持って帰って、お母さんにきれいでしょう、これで終わりではないのだよということを伝えて、自分たちもご飯を食べるように、お花は自分でご飯が食べられないから、お水を自分であげるのだよと、そういう管理をしたりとか、最後まで片づけをしたりとか、そういうことまで言ったら、お家ですようになったと。最後に保護者の方が来たときに、子どもたちが興味をもってくれるようになったと。お花を通してすごく会話が生まれたということ、保護者の方からも聞くことができたので、そういう機会というものを、身近に触れてもらえるということをどんどん体験していってもらえたらと思ってずっと活動</p>

	<p>してきたのですけれども、残念ながら新潟のお花、チューリップとユリの時期というのは小学校のクラブ活動をする時期に当たらず、なかなか地元のお花をというところで進めていくことはできなかったのだけれども、そういったところで季節のお花がありますよというようなことをもっと広められたら、時期的なものもありますけれども、そのようなことが広めていけたらいいと思います。</p>
中野（節） 委員	<p>ありがとうございます。村井さん、一言お願いいたします。一言というか、どのような活動を今までやって、次、どうやっていきたいか。</p>
村井委員	<p>本当にこれは大命題ですよ。花育というのは。食育もそう思うのですけれども、私はコーディネーター12年目なのです。地域には、先ほど話したけれども、ボケという花があって、今、一人1鉢ではなくなったのですけれども、一人1鉢でボケを育てると、ボケは夏場の朝に水をやらなければならないのです。その維持管理をしっかりとやれる子、やれない子は枯らせてしまうわけです。やはり教育の部分に携わったりすると、その辺の自分の大事な花を育てようという意識をもたせるように教育をしていかないとだめなのだけれども、なかなかそれが子どもたちにうまく浸透していかない。12年間やっていると担任も変わって、花に一生懸命な先生と花にあまり興味のない先生だと、すごく温度差があるのです。学校の花育活動の停滞を招く場合があると。そのときに、やはりどうしてもコーディネーターが対応してあげないと、今朝も行ったけれども、地域の緑化ボランティアの方々にもいろいろなことを手助けしていただいているのでうまくいっているという感じで。だから、私も今回この委員をさせていただいて、これから第3次計画の次に、この花育というのは10年後の先のもっと先の話もこれからしていくはずだと思いますし、先ほど片岡さんや玉木さんがお話ししたように、やはり生産者とそういう方々が高齢化して行って後継者がいない。これは花育に限らず、農業もすべて、私も小売業をしたのだけれども、その辺が本当にこれからの課題だと思うのです。私も趣味で野菜を作っているのですが、農業の値段が安すぎるのです。販売価格が。やはりこれでは農業後継者はいないだろうと。だから、花も販売価格が実際に、珍しい花は多分高いのかもしれないのだけれども、市場に出回っているのは値段の安売りになってしまうと、そういう生産者も辞めていくだろうという、そういうすべてのいろいろなことを見たときに、どう今後の、コロナ禍も含めて、生産者がうまく生きていけて、販売者もしっかりとビジネスになって、後継者が生まれるような方法。さらに子どもたちにもそういう花を愛する教育とか、いろいろな観点から考えていかないと、この花育の第3次の方向性はどうかと、今お話を聞かせてもらって感じたので、そういうところを皆さんで議論をされていけば、またいい方向になるのではないかと思います。</p>

中野（節） 委員	<p>ありがとうございました。すみません。時間が押してしまいました。北澤先生も、ぜひ一言お願いいたします。</p>
北澤委員	<p>私が新潟市のフラワーデザイナーとお話ししていると、ちょうど40代より下、30代とか20代の方たちで、これから活躍されてきているのかなという人の人数が少ないという話があって、次に続くデザイナーがいないということを知ります。そして、私たちがしているところですけども、花が好きで学校に入ってくるという子たちがいるのですけれども、その子たちの気持ちを大事に育てて、そして今空いている世代を何とか埋めてつなげて、そしてまたその子たちが次の世代を育ててほしいなと思っておりますので、小学校とかいろいろな保育園とか、ご縁があって声をかけていただいたときに、やはり一人でも花好きな方を増やしたいと思っているので、一つ一つ、私たちもそうですが、皆さんがされている活動が素晴らしいなと思って聞いていまして、こういった活動がつながって、途切れずに、小さいお子さんが育って行って、また私たちの学校なら学校でお花の勉強ができて、プロになっても勉強できて、そういう方がいて、その方がまた次の方にお花の良さを伝えてというように網目のように広がっていったらいいなと思って、今日の皆さんのお話を聞いて、こういう素晴らしい活動につながるといいなと思いました。</p>
中野（節） 委員	<p>ありがとうございました。皆さん、本当に現状、問題点とか、今後こうしたほうがいいということ、本当に明確にお話しいただきました。どうもありがとうございました。行政の方もすごく参考になったと思います。</p> <p>私なりに、最終的にまとめさせていただきたいと思うのですが、やはり花育を使うことによって、未来の新潟がより緑豊かな、農業がきちんとした農業で生きていける。産業も確立できて、強い未来をもっていける。そのためには、必要な人材育成であるとか、人材を次につなげていく技が必要になっていくと思うのです。そのために必要なのが、皆さんの活動や、花育マスターの活動のかなと思います。先ほど北澤先生がおっしゃっていた、皆が少しずついろいろな活動をやって行って、波及して手をつなげていくという、誰かがトップで下にどんと落とすのではなくて、それぞれの人たちが自信をもって自分たちの活動をやりながら隣と手をつなぐと、点と点がどんどん広がっていくことによって大きな面が出来上がっていき、本当に新潟らしい花育はそれのかなと今感じさせていただきました。生産者だからもつ問題点もたくさんあります。これが、消費地であればこういう問題はないかもしれませんが、作るサイド、生産サイド、消費サイドも育てながら、大きなマーケットをどんどん、大きなマーケットというか、小さなものをどんどん作り上げて行って大きくしていくというような新しい活動ができるのではないかなと、今、私もお話を聞きながらすごくワクワクしておりました。第1回目ですけども、皆さ</p>



	<p>んの方向性が統一されていたのではないかと感じさせていただいたのは私だけではないかと思えます。皆様もそうだと思います。ぜひ保育園、幼稚園、小学校、専門学校とか大学、あとは販売されている方々が、ぜひネットワークで手をつないでいただいて、よりよい新潟の、新潟らしい花育というものができていくといいなと思って、一応、今日は締めさせていただきたいと思えますけれども、いかがでしょうか。中野会長、よろしいですか。</p>
中野会長	ありがとうございます。
中野（節）委員	ありがとうございます。では、マイクをお渡しいたします。
中野会長	<p>どうもありがとうございました。事務局でも今ほど話し合った内容を踏まえまして、第3次花育推進計画の策定に向けて進めていただきたいと思います。</p> <p>最後になのですけれども、「その他」として委員の皆様から何かご報告等がありましたら、よろしく願いいたします。</p> <p>特にないようでしたら、これで本日の議事を終了させていただきたいと思えます。皆様のご協力、どうもありがとうございました。それでは、事務局にお返ししたいと思います。</p>
司 会	<p>中野会長、中野節子委員、どうもありがとうございました。本日の話し合いを踏まえまして、第3次の策定作業を進めていきたいと思えます。</p> <p>次回の委員会は、来年の2月を予定しております。委員会の前に、事務局で大まかな案を作成して、皆さんに見ていただいて、ご意見を集約して委員会を開催したいと考えております。よろしく願いいたします。</p> <p>それでは、最後に連絡事項が2点ございます。1点目は、今回の推進委員会の謝礼についてです。9月に指定の口座に振り込ませていただく予定になっていきますので、よろしく願いいたします。2点目は、駐車券についてです。受付の際に出された駐車券は、無料のサービス券と一緒にテーブルに置いてありますので、お帰りの際に忘れずにお持ちください。</p> <p>次回の第2回の花育推進委員会では、皆様からお集まりいただけることを願っております。日程などが決まりましたら、ご連絡を差し上げますので、よろしく願いいたします。</p> <p>それでは、長時間に渡りましてありがとうございました。以上をもちまして、花育推進委員会を終了いたします。お忙しいところ、ありがとうございました。</p>